

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
英語教育法 English Teaching Method		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(教職課程必修(中学校教諭2種(英語)))	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
谷村 航	講師室	授業中に指示する。		授業中に指示します
授業の概要				
英語の教職を目指す際に必要な教授法に関する専門知識を学び、心構えについて考えていく。日本人が英語教師として、自らの母語でない上に、言語の性格上日本語から非常に遠い言語である英語を教えるということの困難と同時に、日本人教師だからこそできるという積極的な存在意義を考えていく。そして、日本人が目指すべき英語とはどのようなものかを考えていく。				
授業の目標				
①主に中学校英語教員になるための専門知識、技能を習得できるようにする。 ②学生の必要に応じて、小学校英語、こども英語について学ぶことも可能であって、そのための知識、技能を習得できるようにする。 ③日本において英語教師としてあるべき態度を、世界中で使われている「様々な英語」という観点から考えられるようにする。				
授業の方法				
テキストの学習項目全般を概観的に学んだあと、日本人英語教師として避けては通れない項目、履修者一人一人の関心のある項目を絞り込んで、資料を集め、発表し合う。それを基に、授業終盤にかけて模擬授業を行う。				
学習の成果(学習成果)				
①これまでは、英語を教わるという学習者としての経験しかなかった学生が、人に英語を教えるという教師の視点を持つことができる。 ②いわば、逆の立場に立った時に初めて持つことができる考え方を知ることができる。 ③教師の視点を持つからこそ、学習者としてやるべきことも改めて見ることができる。 ④英語教師となる将来に備え、学習者としての自分と教師としての自分という複数の視点を持つことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス。英語を学ぶ事。教える事。			
第2回目	英語の指導目標。日本人の英語教育の環境的要因・学習者の要因。			
第3回目	人間にとっての母語・第1言語の役割。第2言語・外国語学習の不安。学習の動機づけ。			
第4回目	英語スキルの指導。(リスニング・スピーキング)			
第5回目	英語スキルの指導。(リーディング・ライティング)スキル統合。			
第6回目	様々な議論のある点：発音指導。			

第7回目	様々な議論のある点：文法指導。
第8回目	様々な議論のある点：文字綴り字指導。
第9回目	様々な議論のある点：語彙指導。
第10回目	教材と機器の利用。
第11回目	ネイティブスピーカーの利用。
第12回目	授業指導案作成。
第13回目	模擬授業と評価会。
第14回目	模擬授業と評価会。
第15回目	レポート作成と解説。

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	①予めテキストを読み、自分の考えをまとめ、積極的に授業に参加する。 ②出席状況
レポート	40%	授業で学んだことをもとに、英語教師としての心構え、指導目標、指導方法、授業展開の仕方に関して自分の考えを述べるができる。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	30%	①指導案の作成が作成できる。 ②模擬授業をおこなうことができる。 ③自己評価と他者へのフィードバックをし、積極的に参加することができる。
その他		

教科書と参考図書

土屋澄男（編）（2011） 『新編英語科教育法入門』 研究社

履修上の留意点・ルール

積極的に授業に参加することが望まれる。また授業で理解できないことやその他不明な点は必ず質問すること。